

2018/05/25

専門認定技師に関する アンケート調査報告書

(公社) 秋田県診療放射線技師会

企画委員会

畠山保雄 佐藤親生 谷口直人

専門認定技師に関する アンケート調査報告書

○ アンケートの目的

近年、コンピュータ技術や機械工学の発展により、画像診断機器や放射線治療機器は高度化し、医療に多大な恩恵をもたらした。同時に、それら機器を操作する診療放射線技師はこれまで以上に多くの専門的知識が求められ、現在、数多くの専門・認定技師制度が機能している。

各種診断、治療機器の基礎から専門的な知識の普及は、国民（県民）が平等に専門医療や医療技術の恩恵・利益を享受できるようにするため（均てん化）のガイドラインである。私たち医療従事者はこれら装置の特徴を理解し、よりよい情報を医師に伝える責務を担っているし、また、その努力を認める社会になってきている。

そこで、今回は AART 会員の専門・認定資格の取得状況を調査し、資格取得者の研修や新たに取得を目指す会員の意識を聴取することで、今後の研修会の企画や他県からのセミナー勧誘の参考にしたいと考えている。

○ アンケート 対象

県内 AART 会員（数名非会員含む）

○ アンケート 方法

秋放技 第 27 号「専門認定技師に関するアンケート調査のお願い」（平成 29 年 11 月 21 日）を発行し、各施設、各会員宛にメール配信や郵送にてアンケート調査用紙を配布。12 月 20 日までにメールにて回答を得たもの、施設単位で取りまとめたものを回収した。

○ アンケート 集計

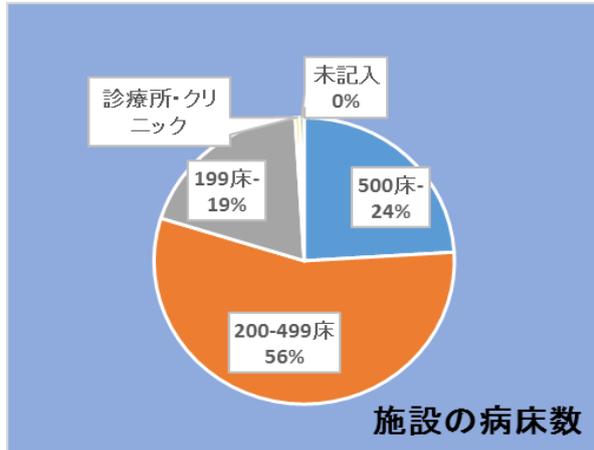
メールで得られた回答やアンケート印刷物への記入による回答をエクセル上に集計した。

1 AART 会員数

会員総数 358 名 回答数 208 名 回答率 58.1%

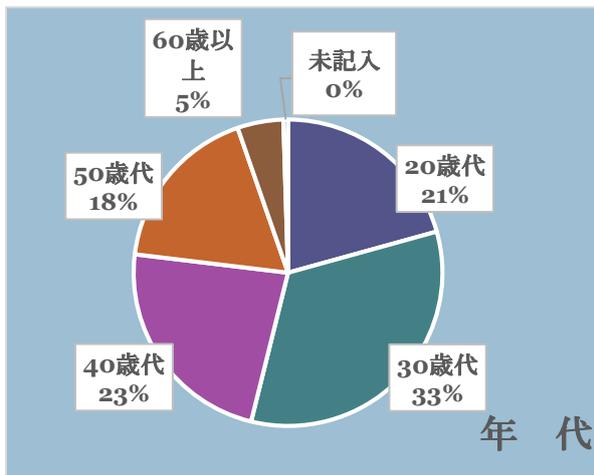
2. アンケート集計結果

Q1：施設の病床数



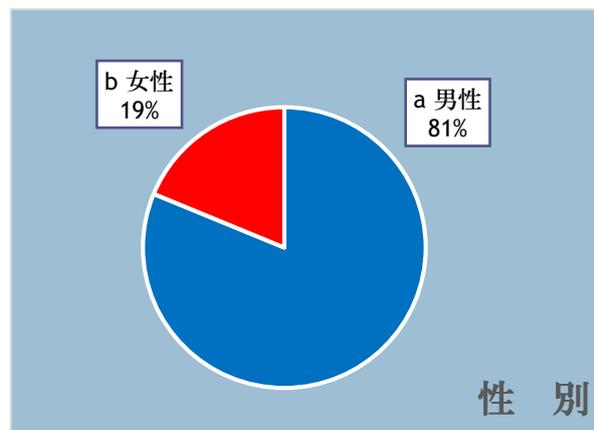
回答	項目 (床)	回答数	%
a	500+	50	24.0
b	200-499	116	55.8
c	-199 床	40	19.2
d	診療所・クリニック	1	0.5
e	その他	1	0.5
	未記入	1	0.5
	計	208	100

Q2：年齢

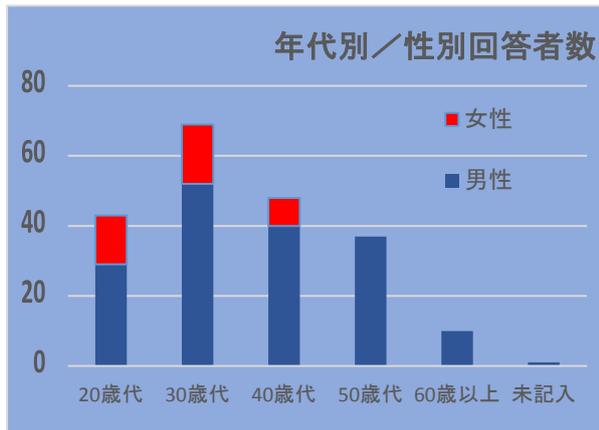


	年代	回答数	%
a	20 歳代	43	20.7
b	30 歳代	69	33.2
c	40 歳代	48	23.1
d	50 歳代	37	17.8
e	60 歳以上	10	4.8
	未記入	1	0.5
	計	208	100

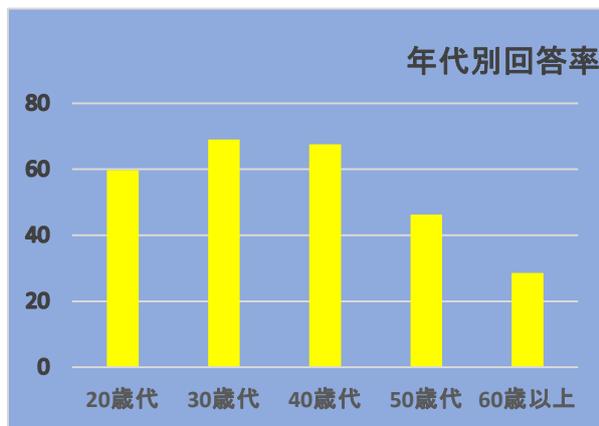
Q3：性別



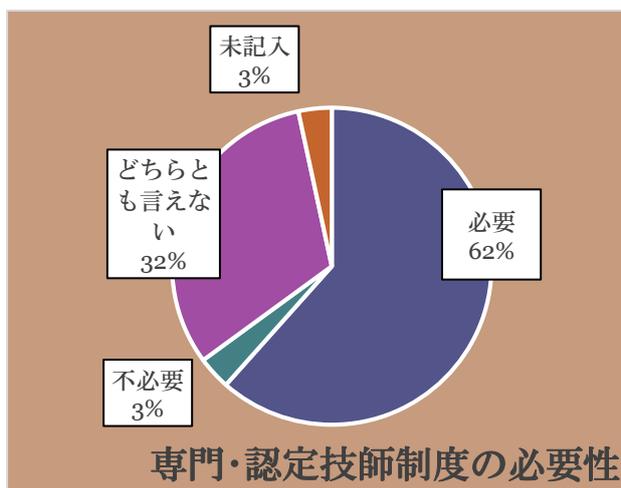
	性別	回答数	%
a	男性	169	81.3
b	女性	39	18.8



年代	会員数	回答数			回答率 (%)
		男性	女性	計	
20歳代	72	29	14	43	59.7
30歳代	100	52	17	69	69.0
40歳代	71	40	8	48	67.6
50歳代	80	37	0	37	46.3
60歳以上	35	10	0	10	28.6
未記入		1		1	



Q4：専門認定技師制度は必要だと思うか？



		回答数	%
a	必要	128	61.5
b	不必要	7	3.4
c	どちらとも言えない	66	31.7
	未記入	7	3.4

<a:必要と答えた理由>

- 各モダリティに専門認定技師がいることによって安全かつ質の高い医療を提供できるため
- 技師が好む、又は得意とするモダリティにおいて自身が目指す目標、そして自身の実力を評価してもらえる指標となり、モチベーションの向上に繋がると思う。
- 院内・院外を含む専門技術の発信。専門知識を利用した地域医療への貢献

- 一定以上の技術レベルの担保するため。教育的指導をするための技術・知識を担保するため
- 今後ますます専門的な知識が必要になることが考えられます。
- 勉強するための目標になる。勉強することで患者さんのためにもなる。
- スキルアップ：知識獲得のきっかけとなりうる。日常業務の中で集中的に何かを勉強しようとするモチベーションを発揮させるためには認定試験が最適である。知識の証明：最低限の知識の保有を内外に「見える形で」保証できる。技術の標準化：部署内における放射線技術の標準化に対する底上げ効果が期待できる。
- 医療の質を示す指標である。個々人の努力を示す現状
- 専門的知識の習得。精度の高い診療業務。患者側の安心感・信頼度アップ。
- 組織として医療技術の向上に対応できる人材育成に、個人としても自身のスキルアップツールとして必要と考えます。
- 放射線領域における医療水準のボトムアップのために必要。取得のためまた取得後の勉学による継続的なスキルアップにつながる。
- 自己研鑽のためには必要
- スキルアップのため。専門性を病院側から求められている。
- 日々進化する技術への対応と検査を受ける患者への安心安全の担保という意味で必要だと思う。また色々な知識を身につけるために認定取得と言う目標があったほうが独学で頑張るよりもよいのではないかと思います。
- 認定試験に合格することがモチベーションになり、勉強にも熱が入るから。
- 医療機器の高度化に追従して診療放射線技師の専門性が高まることは医療の質の向上にも関わるため認定制度は必要と考えます。
- 多くの分野を広く深く習得するのは難しいので、その分野の専門的知識を持った人が身近にもいる必要がある。
- 各施設の新人研修担当者はこのような専門・認定資格を持つべき。施設間の技術レベルの均てん化。
- 個人の自己研鑽では限界があること。対病院、对患者などに専門性を持っていることやある一定のレベルに達していることをアピールできる。
- 各種認定資格の技師数を増やし、いずれ診療報酬の点数に反映されるような仕組みを構築していく（JARTに期待）
- 専門性を高めた人たちの証のため必要であると同時に一般の人たちへのアピールにもなる。
- 認定の中でも魅力的な資格なら必要だと思う。
- 各モダリティに専門性を持たせることで装置の性能を最大限に引き出すことができ、それにともない画像の質も向上していくものと思う。また、診療に有用な画像の提供、提案などをするうえでも認定制度は必要であると思う。
- 技師にエキスパートを育成する意識付けの効果がある。認定制度は社会的な認知度を向上させる。
- 認識している内容の再認識マンモ認定試験ではB判定。試験がとても難しく2度目は考えられませんでした。各種モダリティごとに専門知識が必要とされるのである程度のレベルを維持するには認定試験、制度は必要だと思う。
- スキルアップにとっても良いことだと思う。維持することが大変。
- 継続的な修練を積むための状況と患者、他医療スタッフからの信頼のために必要だと思う。社会的ニーズでもあると考えます（技師免許は入口でしかない）
- 将来、診療報酬に役立つかもしれない。技術・知識を高めることは大事です。
- 国民医療を守る一端としてベースラインの資格だけではなく自身を持って業務を行うことができると思う。ただ、それぞれに付加価値がつけばモチベーションも上がるが。施設に認めてもらいたい。
- 業務が複雑化していく中でより詳しい知識を持ったぎしがいることでその施設のレベルを保つことができるから。どの程度の知識が必要かという指標ができるから。
- 専門性を深めるため、一定の知識を得るために必要。仕事をこなしながら教育するのは難しい。
- 撮影技術の向上につながる
- 年々装置がバージョンアップし、撮影技術が高度になっている。それに対応するためには専門的な知識を有する技師が必要だと思う。
- 専門的知識があるとないでは全然違ってくると思う。医師との関わりも多い仕事なので必要だと思う。
- 医療が高度になり、必要とされる画像情報が細分化されていく中で業務を専門家していくことは必要なことだと感じている。しかし、それが患者と病院双方にとって有益であることも大切だと思う。病院が専門・認定技師を受け入れて給与等当人に還元されていくシステムがまだ追いついていない現状であり、反映されるのであればモチベーションもあがるのではないかなと思う。

<b：不必要と答えた理由>

- ・認定資格に興味を持っている人や技師の職業に対して勉強熱心な人の中でしか広まっていない印象があったので必要ないと思いました。また、当施設では認定資格を持っていたとしても勤務内容や給与にほとんど反映されない。自分も取得しようとしなかったので必要ないかと思いました。
- ・当院では認定より経験年数を最重要としているため
- ・技師会認定の制度は不要。更新にかかる費用も負担が大きい。

<c：どちらとも答えた理由>

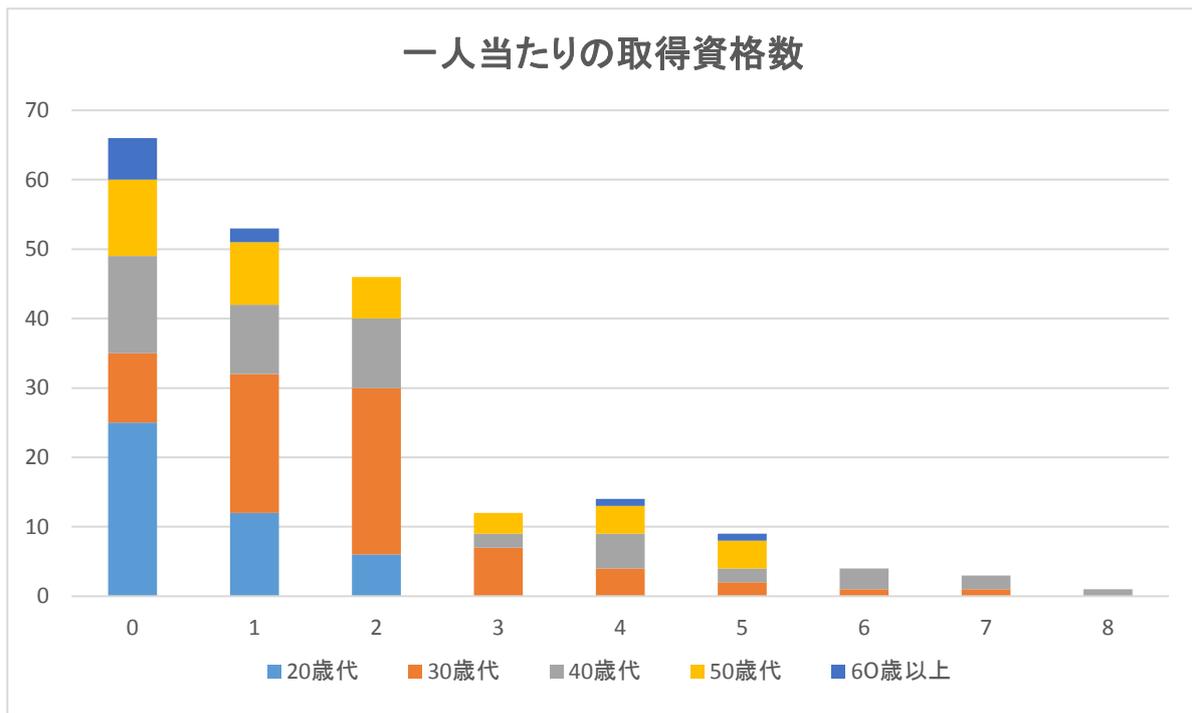
- ・専従や各モダリティ主任などの役があり、それぞれ決定権が与えられている施設では必要だと思う。
- ・取得後のポイント集めが大変。必要だと思うが病院に認められなければどうなのだろうか。自己満足になるのかな。
- ・認定技師でなければできないと言うわけでもない。法的に認定の重要性が欲しい。ポイント取得の出費が多い。
- ・スキルアップのためには必要ですが、勤務配置や給与には反映されていないため。
- ・資格の有無が診療報酬に反映されず、また給与にも影響せず、更新費用も自己負担であればこれから取得を目指す若い人たちに勧められない。
- ・専門認定技師は興味のある分野で一定の知識があることの証明になりうるので、その点では重要である。ただ、病院においてはモダリティをまたぐ人も多く、ポイント取得の点や興味はその分野に向かなかつたりと問題点もあると思う。
- ・取得しても業務に反映されなければ何のためにあるのか解からない。外部評価のためだけに資格が選考しすぎている気がする。
- ・必要だと思うが費用が発生し更新においても地方では単位が取得しづらい資格もある。
- ・日々の業務の研鑽には役立つかもしれないが、取得したからと言ってそれ以上のことが無い。国家資格や医学物理士は別だと思うが。
- ・医療に質の向上のため一定の知識を得ることの指標となる。認定資格にしてまで必要なかと思うものもある。
- ・技師のランクアップ、社会的地位の向上には必要と考えるが、現状時間とお金をかけてまでの取得には中々至らない。
- ・認定技師になってもメリットが少ない。仕事以外にやらなければいけないことが増える。
- ・病院では個人評価に反映されていないため。更新費用も自費でモチベーションが上がらない。
- ・認定制度があれば勉強もするし、モチベーションも上がると思うが色々と費用も発生するし、少なからず負担になっているのでは。
- ・取得によるモチベーションは上がるが、それにより個人の技量が決まるとは必ずしも言えないため。
- ・必要に応じて取得すれば良いと思う。基本は診療放射線技師の国家資格で何でもやればよいと思う。
- ・専門知識を得る、学習できるのは良いが、仲には侍商法のような名前だけ、資格だけの専門認定もアル。
- ・資格を持っていなくてもスキルの高い人はいる。メリットがない（自己研鑽）。
- ・今後は益々専門的名知識が必要になることが考えられます。
- ・自己満足かな。世間的に認めてもらっていない気がする。
- ・技術・知識などの能力向上に必須。個人負担が大きい（時間・金銭）。国家資格は更新不要。
- ・技師会およびそれに付随する団体の資金調達の手段でしかなく、いたずらに若者の向上心を利用しているようにしか思えない料金設定のため。給料に反映されない。
- ・そのモダリティを勉強するきっかけになる。取得しても業務上あまり変化しない。更新に費用がかかりすぎる。
- ・必要：個人のレベルアップにつながる。不必要：資格があっても無くても環境的に何も変わらない。
- ・認定の資格取得や更新はモチベーションアップに繋がる。しかし、認定技師のみが検査を行うことは業務として非効率である。患者からみてみれば認定をもつていようがいまいが同じ技師なのできちんと検査して欲しい、検査しているだろうとおもっているのではないか。
- ・専門的名知識を身につけることと資格を取得するのは別の話だと思う。資格を持っていても業務に生きなかつたり、資格が無くても問題なく業務ができていたりするので。

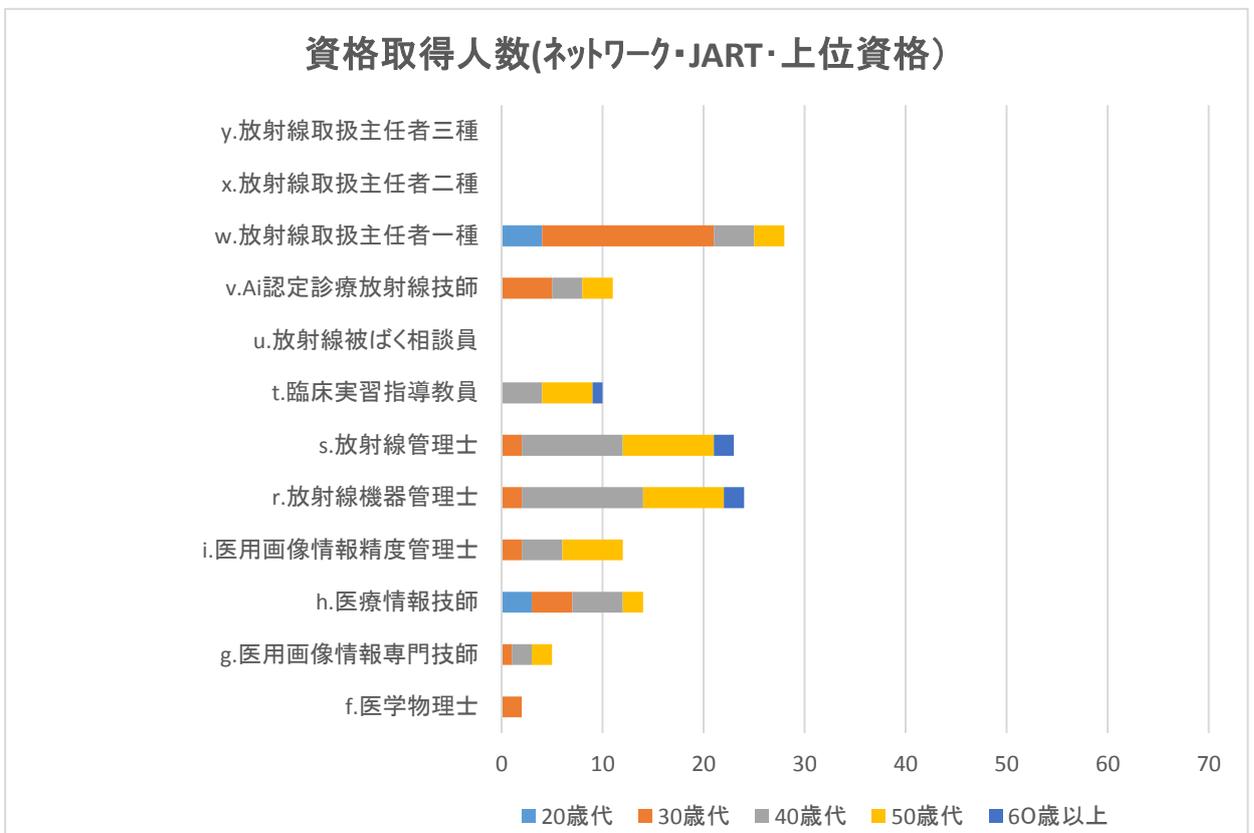
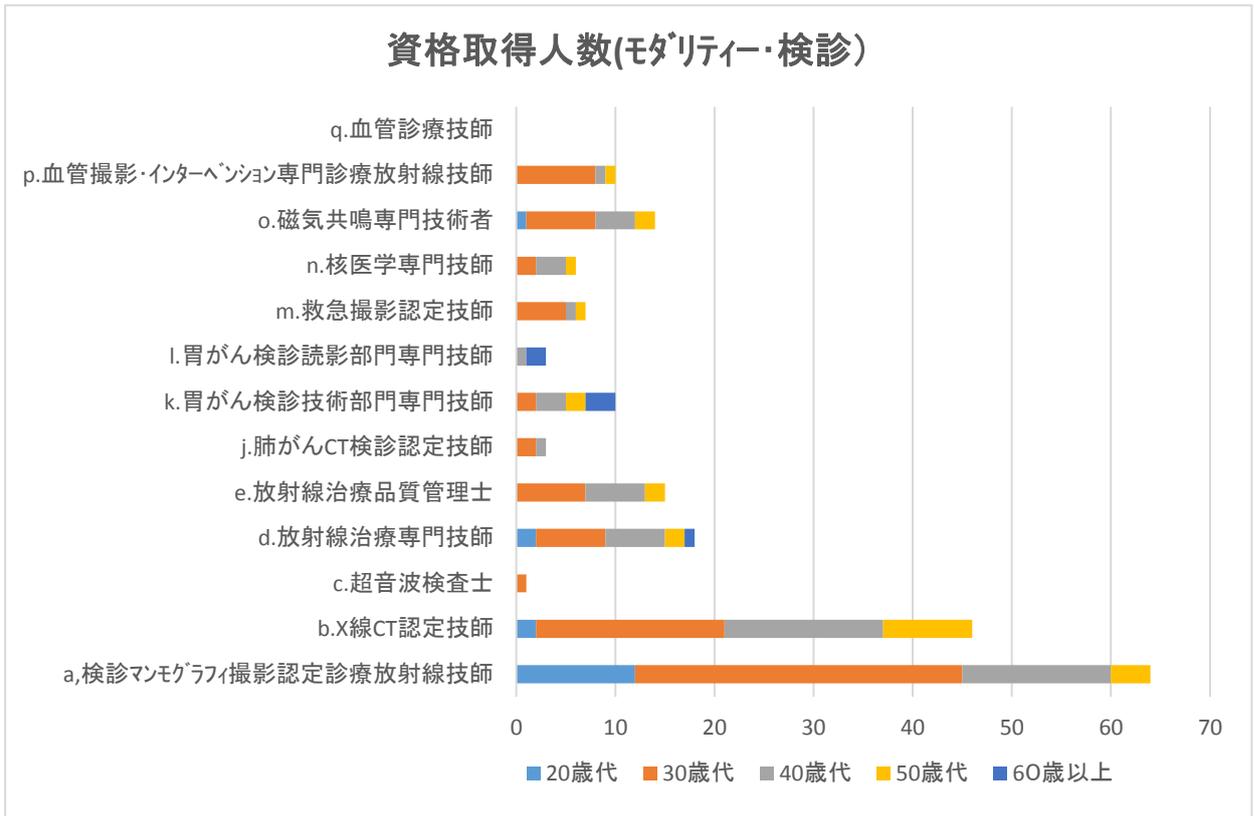
Q5：現在取得している専門認定資格

※回答に記載のあった 26 の資格を便宜上、以下の分類に分け、年代・性別ごとに集計した。

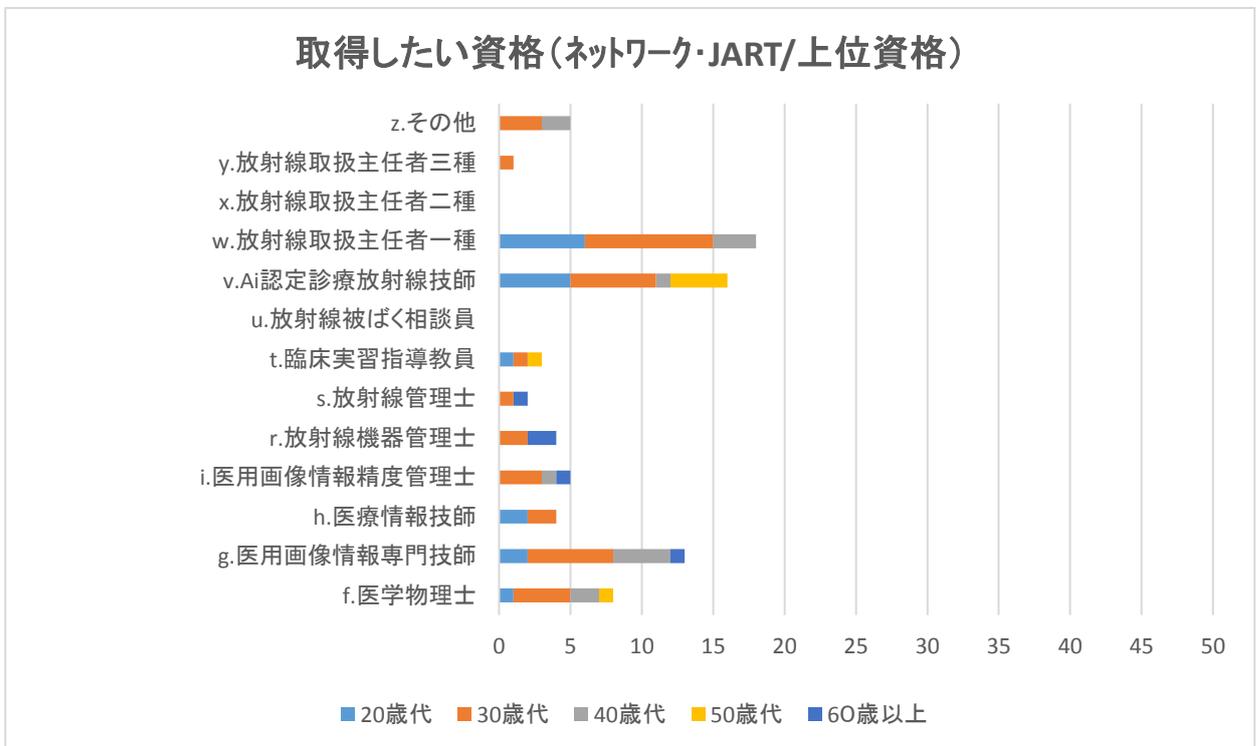
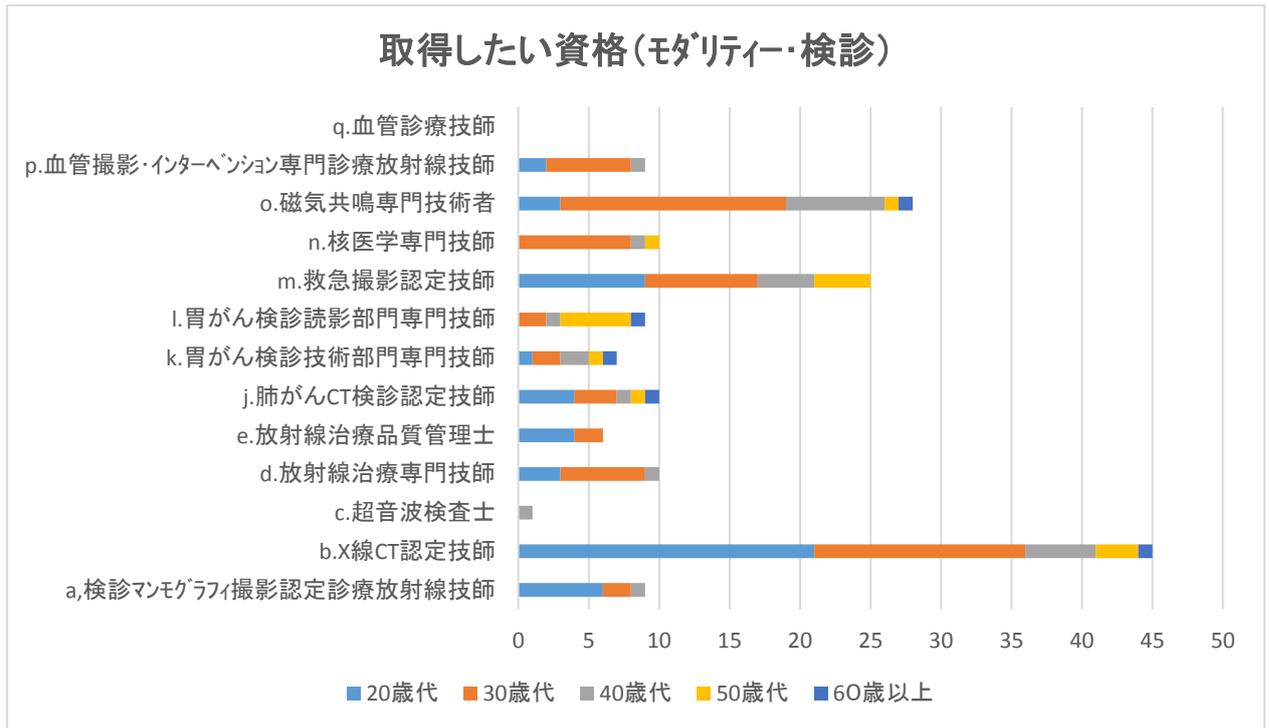
a. 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	検診	n. 核医学専門技師	ETAリティー
b. X線 CT 認定技師	ETAリティー	o. 磁気共鳴専門技術者	ETAリティー
c. 超音波検査士	ETAリティー	p. 血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	ETAリティー
d. 放射線治療専門技師	ETAリティー	q. 血管診療技師	ETAリティー
e. 放射線治療品質管理士	ETAリティー	r. 放射線機器管理士	JART
f. 医学物理士	上位資格	s. 放射線管理士	JART
g. 医用画像情報専門技師	ネットワーク	t. 臨床実習指導教員	JART
h. 医療情報技師	ネットワーク	u. 放射線被ばく相談員	JART
i. 医用画像情報精度管理士	JART	v. Ai 認定診療放射線技師	JART
j. 肺がん CT 検診認定技師	検診	w. 放射線取扱主任者一種	上位資格
k. 胃がん検診技術部門専門技師	検診	x. 放射線取扱主任者二種	上位資格
l. 胃がん検診読影部門専門技師	検診	y. 放射線取扱主任者三種	上位資格
m. 救急撮影認定技師	ETAリティー	z. その他	

※ETAリティー・検診、ネットワーク・上位資格・JARTの2群に分けた。

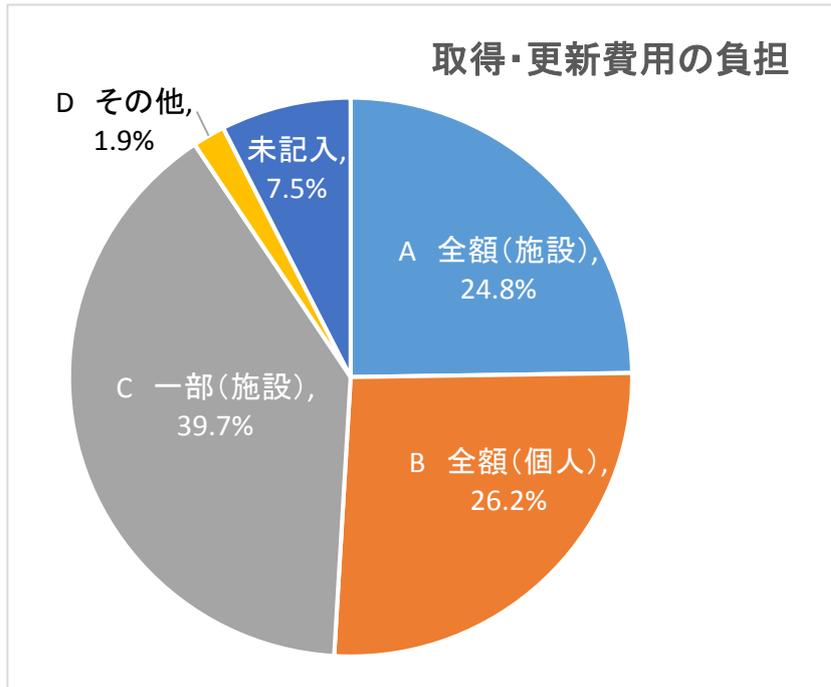




Q6：今後取得したい専門認定資格



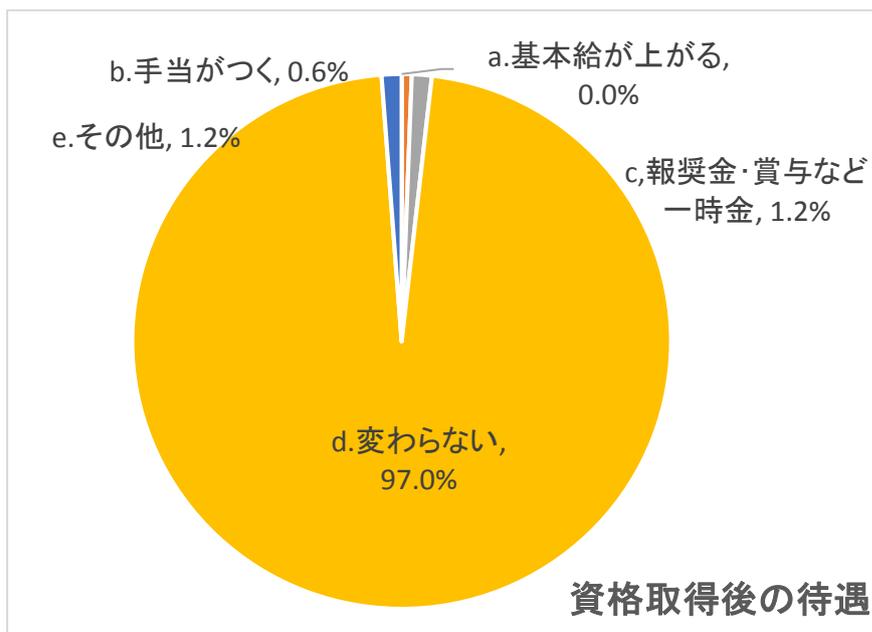
Q7：取得、更新費用の負担



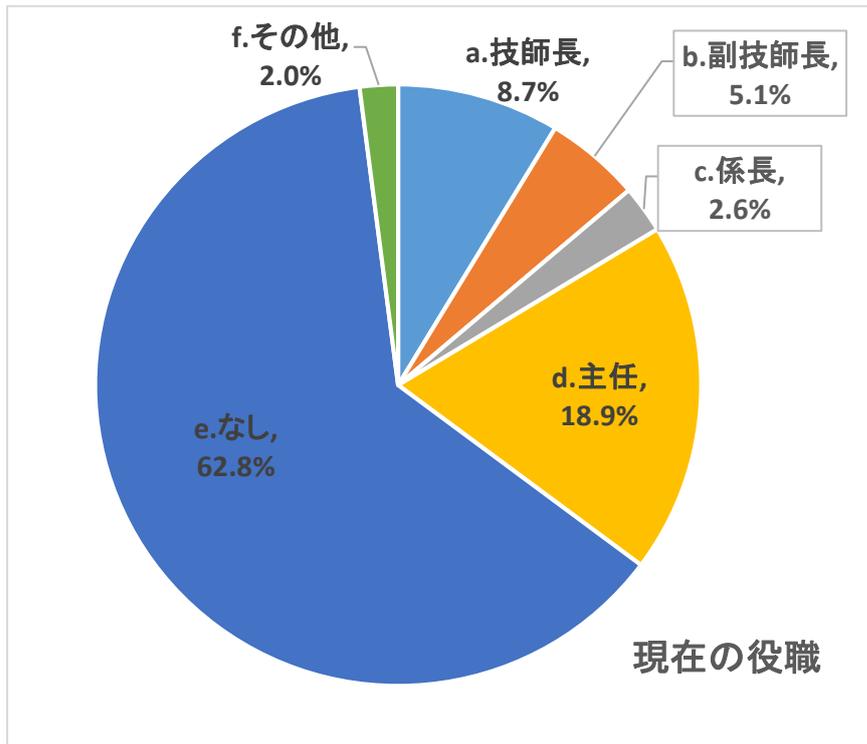
<具体的記入回答>

/マンモは取得、更新、他は予算次 /受験は個人、更新は施設 /受験時の交通費 /受講料のみ /更新は全額・遠方への交通費 /更新費用は実費 /重要性に応じて /職場で必要な物を優先 /更新時のみ病院負担 /学会参加は施設、取得更新は個人 /旅費の一部 /予算により流動的 /補助金等に関わる部門は施設が負担：治療等 /遠方への交通費 /更新は施設 /試験は自費、講習は施設が負担 /取得は自費、維持は施設で /担当業務に関わる資格は施設 /出張扱いになる場合有 /更新は全額

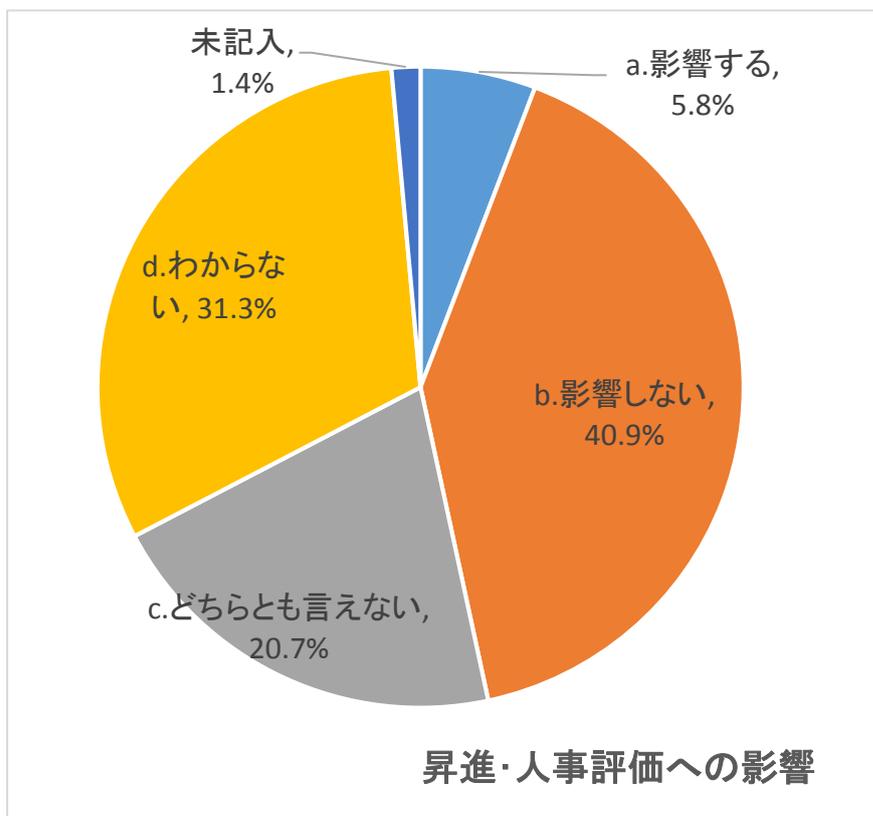
Q8：資格取得による待遇



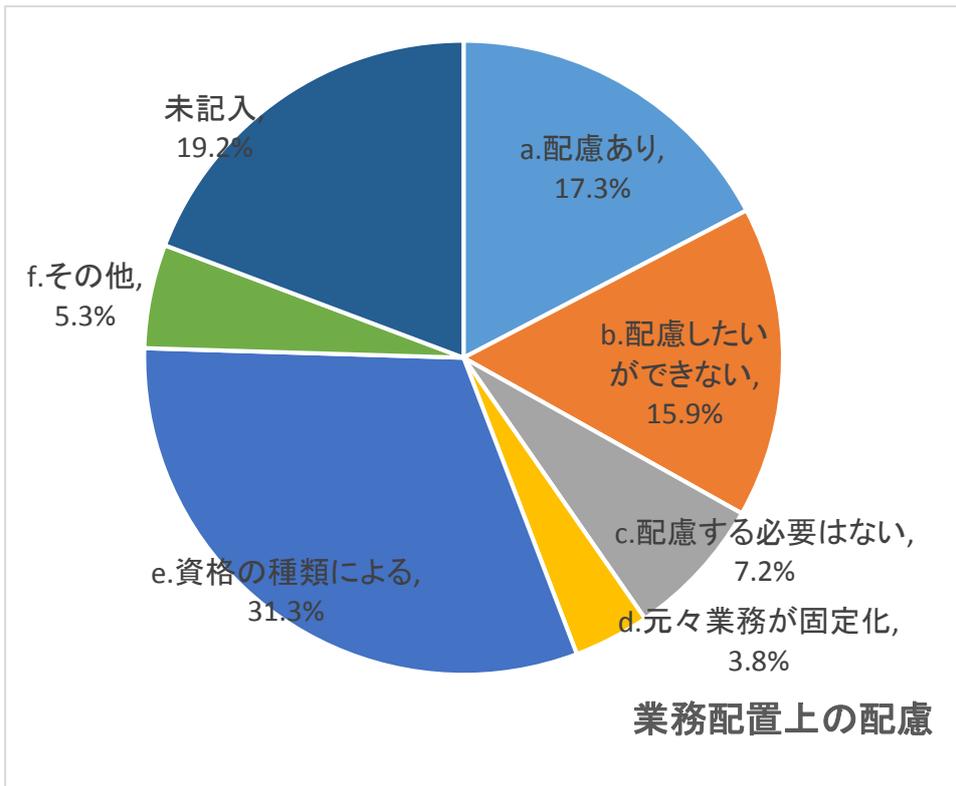
Q9：現在の役職



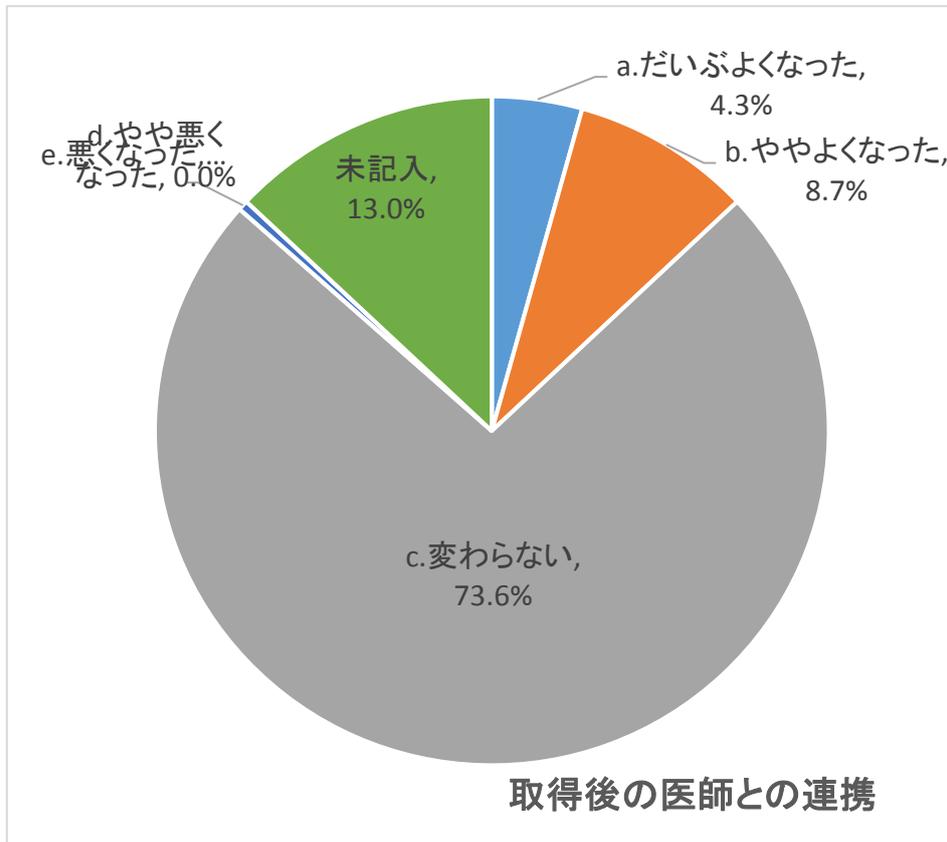
Q10：資格取得による昇進・人事評価への影響



Q11：資格取得後の勤務配置上の配慮



Q12：資格取得による医師との連携環境



Q13：更新しなかった、またはしないと考える専門認定資格

- ・ 20歳代 医療情報技師（更新が大変）
マンモ：今後実務に携わることがなさそうだから
- 30歳代 マンモ：撮影、精度管理など行うきかいがほとんど無い。
マンモ：男性が撮影する機会が無くなった。
マンモ：男性はもう要らない。
線管理：ポイント足りず
機器管理、線管理：更新年に初めて更新にかかる種類、手続き、必要なポイントなどを記載した紙が送られてきた。更新に対して計画的な行動ができない。
マンモ：担当することが無くなった。女性技師が携わるようになり更新せず
医用画像情報制度管理士：多数資格があると講習会にも様々あり全てを更新するのは難しい
医療情報技師：ポイントのつく講習会、学会等が東京などの大都市部で開催されるので自費参加が不可能なので更新しない。
医療情報：電子カルテの導入に伴い、放射線科関連の医療システム管理に携われるかと取得してみたものの、資格があるからと言って特に権限を与えてもらえなかったため。
機器管理、線管理：ポイント取得が困難だと感じる。
胃がん検診：異動で撮影実績がなく更新できない
CT：誰でも取得できるイメージで意義を感じられない気がする。
CT：ほとんど関わりが無くなってしまった
他：直接、検査に関わり無い資格は更新しないかと考えております。必要の無い更新に更新料を払うのも無駄かなと思います。
- 40歳代 MMG：女性技師が増えたら考える
マンモ：更新してもデジタル化が進む中、無用になる更新内容が多く出現してきているのではないかという疑念を抱くことがある。
CT：更新の日程調整できず
他：取得の際の動機が周りがやっていたから、長続きしなかった。
マンモ、医用画像専門：出産と重なり更新できず。
- 50歳代 治療専門、臨床実習：異動、定年間近
マンモ：女性技師のみが撮影となった
他：異動などにより技師会関連は未更新
放射線管理士、臨床実習指導教員、医用画像情報専門技師
マンモ：撮影しない。給料上がらない。
臨床実習：更新に手間
- 60歳以上 機器管理、線管理、臨床実習：もう十分と考える。

Q14：アンケート、技師会に対する意見・要望

- ・ポイントが付与される講習会の開催
- ・可能な限り給与面での手当てが欲しい。
- ・現状、冠がつくだけで業務範囲や保険点数には影響少なくこのアンケートがそういう部分に少しでも寄与すればと思う。時間と経費をかけて「努力の証」ではもったいない。診療にもっと寄与する物を取りたいと思う。
- ・診療報酬に組み込んで欲しい
- ・働く職場によって求められる仕事が違うので認定資格があっても活かせない場合もあります。認定資格を生かせる職場になればモチベーションの工場に繋がるのではと思います。
- ・技師会認定の資格について中々触れ合う機会がないのでイメージがわからない。新規に資格を取得する人の後押しをする場があればよいと思う。資格毎に。
- ・認定取得によって手当が付加されるのは本人のモチベーション向上のためにも良い。もしくは認定技師のいる施設に診療報酬が付加されると病院の利益となり技師の立場も向上する。
- ・資格更新が負担になっていると感じる。
- ・当院では専門認定技師取得に関わらず、医師および他職種との連携は取れている。資格よりも施設の環境による物が多いと思う。アンケートの実施方法についてメールやHP、オンラインツールを使用したほうが良いのではないかと。

- ・講習会の受講料が高すぎる
- ・後進条件をもっと緩くして欲しい
- ・JART 本部を浜松町から福島県相馬市移転希望（会費減額）。セミナー開催の回数を増やして欲しい。
- ・認定を持った人がわからない人にもっと指導など教えればいいと思う。発表など押し付けるように依頼はやめて欲しい。（参加しなくなるもと）
- ・専門認定は個人のスキルアップだけでなく職場の技術向上にも繋がると思います。取得した場合の手当てなどの対応、これから課題はたくさんあります。
- ・研修会が重なることがあるので考慮して開催して欲しい。研修会で会員・非会員の参加費が異常に違うので考慮する必要がある。
- ・資格取得が個人評価に結びつくとの考えで取得する者がいるが、あくまで資格取得で業務に貢献しているかで評価するので安易な考えの者がいるのは残念。
- ・更新毎に更新料を払うのはいかがなものでしょうか。
- ・技師会認定の資格は廃止すべき
- ・資格認定のための研修や試験は都市部での開催がほとんどであり、費用の面において負担が多い。JART 主催の認定試験が地方でも受験できるようにして欲しい。
- ・認定試験に合格し資格を持った人がもっと報われるようになればいいと思います。
- ・維持する労力が多すぎる。
- ・色々専門技師を作るのはいいのですが、取得・更新自腹では次に繋がらない。時間が何ぼあっても足りない。

アンケート 総括

- 1、 アンケート回答率：回答率 58.1%と半数以上の会員から回答得を得た。特に 30 歳代、40 歳代の会員では 7 割に近い回答を得、関心の高さが伺われる。また、20 歳代も 6 割弱の回答があり、資格取得への意気込みを感じられる。
- 2、 専門認定技師制度の必要性については、約 60%の会員が必要との回答であった。記述回答を見ると、必要と答えた理由に、○モチベーション、○知識・技術の向上、○知識の証明、○発信と地域貢献、○診療報酬への反映などの言葉が並ぶ。一方、不必要と答えた理由には、●資格取得と処遇改善、●費用負担などの意見があった。また、どちらともと答えた理由には、認定制度の必要性を認めながらも△取得のための費用、△ポイント取得とその費用、△取得と処遇など必要理由、不必要理由を合わせた意見が多かった。このような意見は全体の 3 割にのぼり、費用面や処遇面での何らかのアクションがあれば満足いく認定制度になりうると思う。
- 3、 取得している専門認定資格については、全年代でほとんどの会員が 1 種類から 2 種類の資格を取得しており、一部の 30 歳代、40 歳代の会員は 6 種類から 8 種類を取得している状況であった。モダリティに関する資格や検診に関する資格は取得者数も多く、マンモ 60 名以上、X 線 CT 40 名以上であった。それ以外の資格では、取扱主任者 1 種が 30 名あまりと多く、JART の線管理・機器管理がついで多かった。
- 4、 取得したい専門認定資格については、モダリティでは X 線 CT、MRI、救急撮影と人気が高かった。その他の資格では取扱主任者 1 種、Ai、医用画像情報専門技師、医学物理士の人気が高かった。
- 5、 取得・更新費用の負担については、全額施設、全額個人がそれぞれ約 25%ずつ、半数が一部施設負担と答えた。具体的回答では、マンモが全額施設負担の対象とするところが多く、その他の資格については予算があればと答えた。このことより、検診マンモ撮影認定技師の認知度の高さが伺われる。また、全体的に多くの会員が資格取得・更新における経費負担を個人で賄っていることがわかる。
- 6、 資格取得による待遇については、ほぼ全員が変わらないと答えた。これは、質問 10 とも関連があると思うが、直接的に待遇が変わるわけではないが、将来的に考慮される余地があることを、影響すると 5%の会員が答えた。また、将来的なことでもあり、多くの同僚が資格を取得するという状況になると想像するので、影響する 50%しない 50%の会員がどちらとも言えない 20%の意見になっているように思われる。また、そのようなことは勤務配置にも現れ、配慮を受けたと実感した会員、配慮した、あるいは配慮したいと考える会員（上司）が 32%いた。
- 7、 更新しない、あるいはしないと考える専門認定資格については、マンモ、X 線 CT が撮影する機会がなくなったことを理由に更新しないと回答した。また、線管理・機器管理では更新ポイントの取得が困難として更新をしない会員が見られた。
- 8、 意見・要望では、上記内容を含め、資格取得費用ができるだけ少額で、また更新に必要なポイント取得もできるだけ県内で可能な研修会の開催などの要望が多くあった。また、処遇面での改善を期待する会員も多くいた。

<< 最後に >>

現在の専門認定技師取得は、複数団体や N P O 法人などの機構による認定になっており、社会から評価されることも十分考慮されている。また、関連学会等による統一基準に基づいた専門性を審査・認定することも目的とされている。これらを鑑みチーム医療における重要性を担うには、専門認定技師の必要性は十分にあると考える。しかし、日常業務をこなした上で自己学習し、自己負担で認定を取得することはハードルが高いし、モチベーションだけでは取得後の継続も難しいと思われる。

今後は、待遇面のアップを目指し、認定取得後の業務のあり方も考え、放射線部門として施設にアピールしていくことも必要と感じた。最後にアンケートに協力いただいた会員にお礼申し上げますとともに各個人がこの調査を参考に日常業務への取り組みを考察する機会となるよう期待し報告とする。

(公社) 秋田県診療放射線技師会 事業推進委員会